

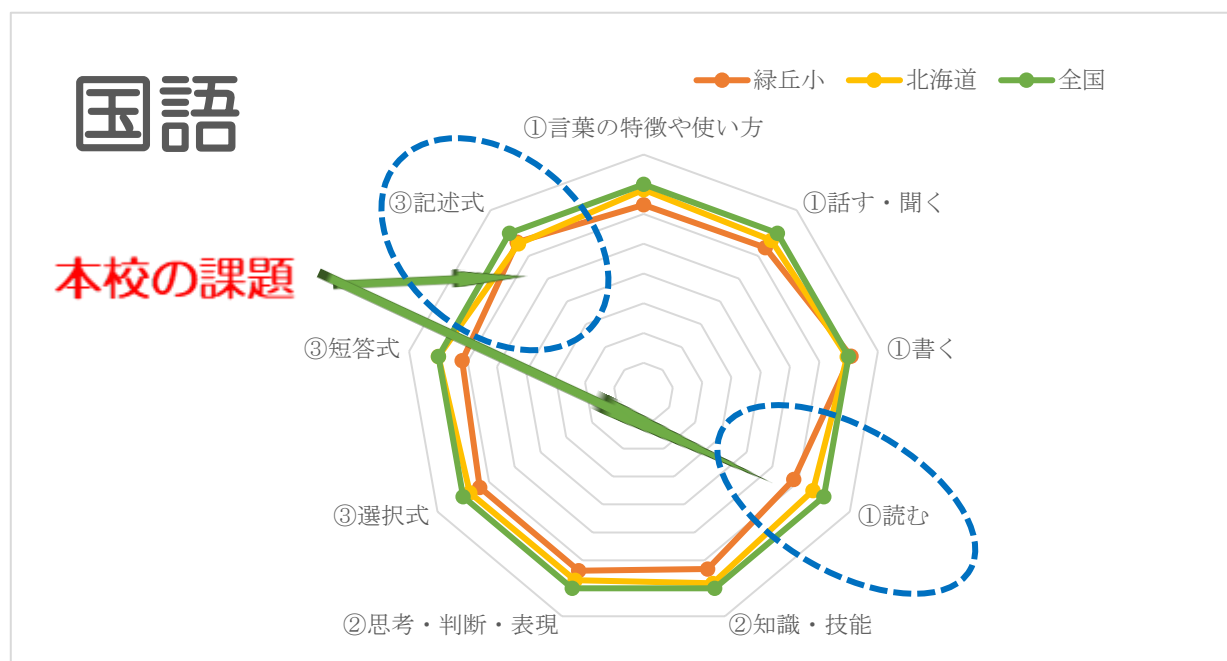
# 令和3年度 全国学力学習状況調査の結果

5月27日に6年生が実施した、全国学力・学習状況調査について、すでに北海道や帯広市における児童・生徒の学力分析結果が報道やそれぞれのHP等で公表されています。つきましては、本校の結果をお知らせします。今年度の調査では「国語」「算数」の2教科と「質問紙」を実施しています。グラフは全国平均を100としたときの北海道と本校の結果です。

## < 国語 >

得点率が比較的高かったのは「話す・聞く能力」で、課題が見受けられたのは「読む能力」と「記述式の問題」で、これは全国・北海道と同じ傾向でした。「書く能力」については全国平均以上になっていますが、その他の領域については課題がありました。特に「記述式の問題」について、字数制限や必要な条件を指定された回答方法など、授業の中であまり取り扱わない問われ方をされると戸惑ってしまう様子がありました。多様な答え方に慣れ、どのような問われ方にも対応できるように練習する必要があります。これらのことから、全校的に限られた字数の中で文章を書いたり、いくつかのキーワードを入れて文章を書いたりするなどの取組を国語の授業で始めています。また書くために必要な「語彙力」を高めるために、大切な言葉に印をつけて着目・定着させる取組も全校的に始めています。

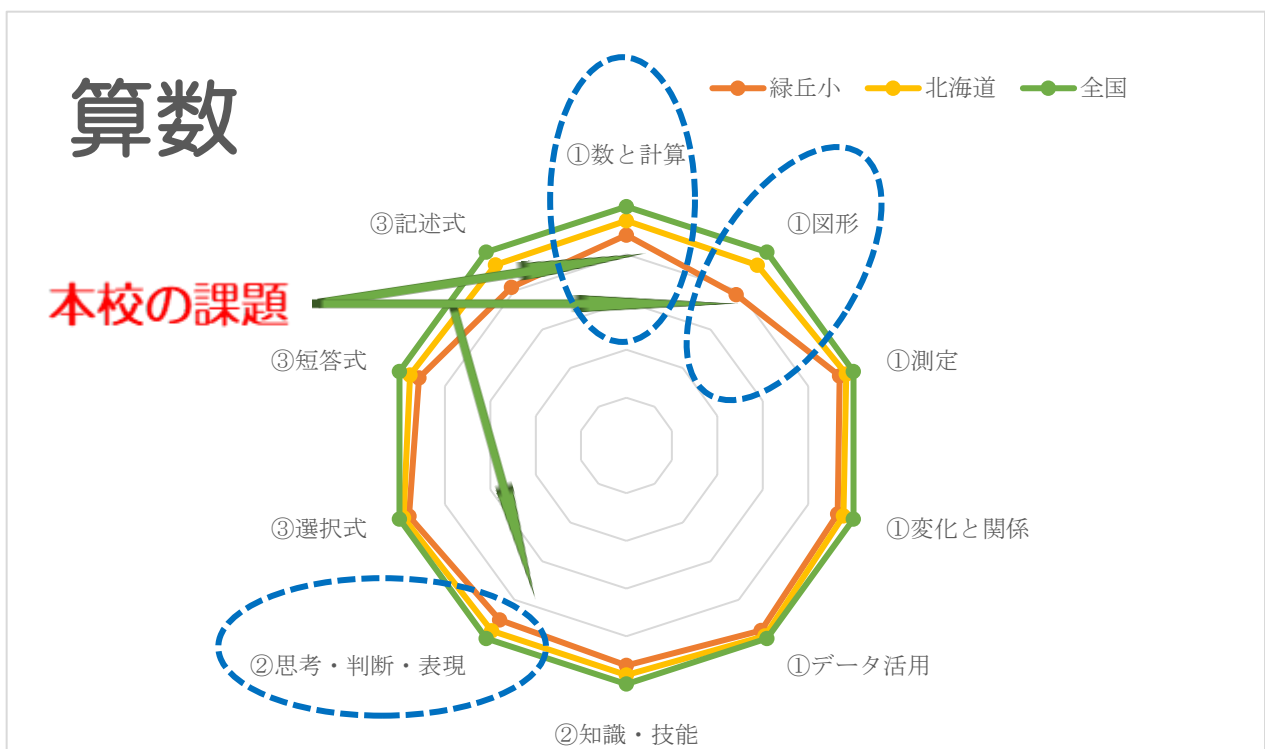
また、国語の授業はもちろんのこと、日常的に読み聞かせのボランティアの方々に来ていただいたり、図書室の環境を整えていただいたりしています。子ども達がこれからも読書に親しみ、「読むこと」を楽しめるような環境づくりも続けていきたいと考えています。学校でもたくさんの言葉を吸収し、たくさんの言葉を発信できる機会を大切にしていきたいと思います。ご家庭のご協力もお願い致します。



## < 算数 >

得点率が比較的高かったのは「データ活用」で、特に課題が見受けられたのが「数と計算」「図形」「思考・判断・表現」でした。全国平均との比較ではどの領域も課題がみられました。

具体的な課題としては、三角形の面積の公式を忘れてしまっていたり、割合についての理解が不足したりしていました。国語と同様に正確に問題を読み、思考の過程や解答の根拠となることを説明する問題に苦手意識があるようです。全く分かっていないのではなく、その解答の手順や根拠を説明することができない子ども達が多い実態がありました。授業でも自分の考えを交流する機会を設けるように努めていますが、声に出すのと文章に記すのとではまた違うようです。日常的に、「はじめに…」「次は…」「最後に…」等、順序を表す言葉を用いて思考の過程を説明したり、「なぜなら…」「～からです。」等の言葉を用いて理由を説明したりできるように意識する必要があります。今後も、子ども達がゆっくり説明できる機会を増やしていく取組を継続していきます。ご家庭でも、是非、取り組んでみてください。



## < 児童質問紙 >

児童質問紙の結果から、「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童が全国平均よりも多く、自分の将来に対してしっかりと向き合い、立ち向かっていこうとしている姿がうかがえます。さらに「いじめはどんな理由があってもいけないことである」と答えた児童も全国平均を大きく上回っています。

その反面、「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童が少なく、なかなか自信をもてずにいる傾向もあらわれていました。

学習では、「自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童が全国平均よりも多い一方、「1日に家庭で学習する時間」を具体的に問われると平日も休みの日も短いという実態がわかりました。また、「1日にゲームをする時間」がとても長く「3時間以上」「4時間以上」と答えた児童を合わせると約50%にも達しています。さらに、「家の人とのスマホやパソコンの使い方の約束を守っている」と答えた児童が全国平均よりも少なくなっており心配な状況もみられます。

毎日の生活習慣は、改善しようという高い意識をもって頑張らなければなかなか変えることは難しいものです。学校と家庭で連携しながら生活リズムの改善に向け協力して進めていきたいと考えております。